

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成20年 2月19日

【評価実施概要】

事業所番号	0770302313		
法人名	株式会社 エコ		
事業所名	グループホーム ささはら		
所在地	〒963-0111 福島県郡山市安積町荒井字茂平6-11 (電話) 024-946-3595		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなのビル302号室		
訪問調査日	平成20年1月22日	評価確定日	平成20年3月3日

【情報提供票より】 (平成19年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)17年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 16人, 非常勤 0人, 常勤換算	11.1人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	(4~10月) 9,000 円 (11~3月) 12,000 円
敷金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (19,950 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	5 名	要介護2	7 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.1 歳	最低	64 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	やぎぬまクリニック、しろくま歯科
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

木造2階建てで、住宅地の一角に立地した2ユニットのホームである。駐車場や畑が広くとられた敷地で、遮るものがないため明るく静かな環境である。「地域に愛されてやすらぎと憩いのあるホーム」という理念の基、職員も楽しく生活していることがうかがえる。職員の年齢は中堅が多く対応に落ち着きを感じられた。近所つき合いも回覧板の他、様子を見に来る方・中学生のボランティアなどの訪問があり、理念でもある地域に愛されるホームづくりに努めていた。クリーン作戦や地域行事への参加を積極的に行い、地域の様々な人との交流に努めている。また、家族の訪問も多く誰でも訪れやすいホームとなっていた。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前年度の評価では定期検診が未実施であったり、日々の記録が十分ではなかったが、評価の意義など話し合い、できることから一つずつ改善に向け努めてきた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価の実施により、できていることの確認とできていないことの確認ができたことは有意義で、職員全員でホームを客観的に見直す機会となり、サービスの質の向上につながっている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5) 運営推進会議では、立場の異なる委員より幅広い意見が出され、サービスの質の向上のための話し合いがされている。特に家族側からは食に対する安全性などの指摘があり、浄水器の設置を行いすぐに対応されていた。食品の原産地などについても質問が出され、誰もが意見を述べることのできる雰囲気での会議となっている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の意見や要望は、運営推進会議の開催時や意見箱等を設置し把握に努めている。気軽に意見が述べられるように職員は利用者や家族とゆっくり話をする時間を積極的に作っている。さらに、抽出された意見に対しての改善案や実施方針、実際行われた対策などの結果を報告するなどして、意見が有効利用され質の向上に努められている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の行事の参加以外に、日常的に散歩などを通して様々な人達との交流が深まり、地域の特定的方ではあるが訪問や見学の機会も増えつつある。中学生のボランティア訪問もある。今後は実習生の受け入れやボランティアへの働きかけなどを積極的にしていきたいと検討している。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、法人の理念とは別に「地域に愛されてやすらぎと憩いのあるホーム」という事業所独自の理念が掲げられていた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念は、家族・来訪者などにも見える所に掲示し、日々ミーティングでは理念について職員全体で話し合い等をしながら共有されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の集まりやイベント（文化祭、お祭り等）に参加したり、年3回地域のクリーン作戦（清掃作業）に参加し、地域との関わりを大切にしている。また地域の中学生がボランティアとして訪問している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義を全職員に伝え、全員で自己評価を行っている。前回の外部評価の結果を職員全員で確認し共有して、改善計画を作成し、より良いサービスに努めるよう進めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出された家族からの要望（利用者、家族に判るよう職員全員のエプロンにひらがなでネームをつけてほしい）等は、その都度改善されている。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の請求書には、一緒にホーム独自（居室担当者が近況報告）のお便りを作成し、小遣い帳のコピーを同封し家族に報告している。必要に応じて電話連絡などもしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの要望は、面会時に聞き取り、ミーティングで話し合い、反映に努めている。また運営推進会議でも家族代表から出された要望は、その都度改善に努めている。水質や食品の原産地などに関する質問もあり、意見が出しやすい雰囲気となっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人としても、利用者との馴染みの関係の重要性は十分認識しており、職員の交代は配慮している。新人には管理者が直接対応指導している。新人が慣れるまでは、ベテランがカバーし協力している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の向上の必要性は十分認識しており、法人全体で年間研修計画が作成されている。職責に応じて、新人職員研修、計画担当者研修等に参加している。また、ホーム外研修に参加した職員は、報告書を作成し、職員会議で発表し共有化を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内他事業所で、職員が体験入居し交流を図り、相互のケアの向上に反映させるよう取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意なことを教えてもらい、人の役に立つことの喜びを知ってもらい、お互いに支えあいながら生活をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中で利用者の希望を聞きだすよう努めている。聞きだした希望の理由を探り、職員同士で共有し、個々の希望に沿った支援に努めている。しかし、利用者や家族の思いなどに変化が見られない。	○	利用者や家族の思いなども、達成したものは次の意向を聞き取っていく必要がある。声でなく笑顔などから感じ取った利用者の思いや、それとなく言った言葉などを明記し、その実現のための計画となればさらに良いと思われる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族から思いや意見を聞き、反映させるよう、アセスメントをスタッフ全員で共有し、ケアプランを作成するように努めている。スタッフの意見が出しやすい会議となっており、意見などが反映されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、その都度新たな計画を作成している。毎月のケース会議の他、毎日の申し送り時に、状況の変化などあれば、情報を共有しながら対応している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。ホーム対応の受診（診療所受診、往診対応）は、受診結果等を家族に報告し共有している。家族が同行受診の場合は利用者の状況を説明し、受診後報告を受け共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化と終末期の方針は示しており、利用者、家族には契約時に終末期の看取り等についての事前意志確認書を頂いている。緊急時の入院先を決めて、ご家族の意向を把握し支援するよう取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーを尊重し対応には十分注意している。利用者へは「個人情報使用に関わる同意書」について説明し、同意を頂いている。また、職員からも個人情報に関わる誓約書を採用時に提出させ漏洩防止に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的な流れはあるが、利用者の体調に配慮し、個々の表情など探りながら、その時の気持ちを尊重し、希望に添った支援に努めている。入浴や散歩など、どうしたいのかの確認をしながら、利用者のペースを大切にしよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のペースに合わせて、食事の準備、後片付けなど手伝ってもらっている。職員と利用者が同じテーブルで楽しく食事できるよう、雰囲気づくりを大切にしている。週に一度は利用者の希望のメニューを取り入れ実践している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望を取り入れた入浴に努めていて、入浴を拒む利用者には、くつろいだ入浴ができるよう対応の工夫をし、異性が嫌がれば同性が対応したり、声かけの担当者を変えて試みる等、工夫しながら支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	一人ひとりに合わせて日常行動を把握し得意な分野での力を発揮してもらっている。掃除や洗濯物干し、畑仕事などを手伝ってもらい感謝の気持ちを伝えるよう努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	希望に応じ外出や散歩、ドライブ等行っている。地域でのお祭りや、いきいきクラブ(地域の高齢者の集い)への参加など希望にそった支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関に鍵をかけていない。職員は利用者が監視されてるという意識を持たないように声かけや、見守りの距離などに意識を払いながら支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月定期的に避難訓練を実施して、職員の意識も高い。今後は避難時間などを把握し、災害時の備蓄については検討してほしい。	○	避難時間の把握をしてほしい。また、災害時の備蓄について検討し、備えてほしい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は利用者一人ひとりの状態を把握し、利用者に合わせた食事形態が検討されている。摂取量についての記録がされて、食欲のない利用者などには、声をかけたり、体調の確認などしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は明るくて広い。利用者が自分のいる場所を確保できるようにソファや畳の部屋にはコタツなどが設置されている。季節に合わせた装飾がされ、観葉植物や花などが飾られすっきりした空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には馴染みの物品が持ち込まれている。利用者の能力などを考慮しながら、洗濯が干せるよう工夫したり、物品の置く場所なども職員が聞きながら検討し、配置されている。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホームささはら

記入担当者名 堀越 香代子

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。